

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立関特別支援学校

学校番号

113

自己評価

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で生きていくために必要な知識・技能を身に付ける。〈知識・技能〉 ・自ら考え、自分の思いや考えを表現する。〈思考力・判断力・表現力〉 ・自ら学び、仲間と共に高め合える。〈学びに向かう力・人間性〉
--------	---

【小学部】

評価する領域・分野	教育活動
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方針、授業、家庭との連携については、昨年度同様おおむね高評価を得ており、学校教育に理解を示してもらっている。 ・「教職員が協力し合って生き生きとしている」項目において、やや低い評価をつけられた方もおり、教員同士の言葉遣いや態度を見直すことが必要。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①家庭、医療、福祉等の関係機関と連携し、個に応じた支援を通して一人一人の安心安全な学校生活および学習環境を確保する。 ②体験的な活動の充実を図り、自分の思いや考えを周りの人に伝えたり、児童のもてる力を最大限に発揮したりできる指導や支援体制を構築する。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ①学年、グループ等で児童の情報を迅速かつ丁寧に共有できるよう、担任を中心とした学級集団や学年集団における代表者の選出と報告・連絡・相談等の徹底 ②児童の実態や課題を的確に捉えて指導や支援に生かす話し合いの場の設定と記録の蓄積
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ①保護者と登校時の引継ぎや連絡帳、電話での情報共有を丁寧に行う。また、関係機関とタイムリーな情報共有や相談をして問題の未然防止や解決を図る。 ②単元ごとに記録を残し、活動や支援内容の評価を行うことにより、的確な実態把握や課題設定を行う。 ③児童が活動する際の補助手段の活用、教材・教具の工夫を行い、児童にとって分かりやすい授業づくりに努める。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ①児童の情報を保護者や関係機関と共有し、適切な支援体制がとれているか。 ②児童の様子を記録に残し、評価と修正を行うことで適切な目標設定ができているか。 ③児童にとって分かりやすい教材・教具を工夫したり、見通しのある活動を提示して次への期待感を高めたりするなど、児童が主体的に取り組める授業づくりができているか。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ①児童の体調に関することを中心に情報収集を行い、得た情報を関係職員で情報共有して、役割分担や支援の方向性を確認した。 ②単元シートや指導と評価の年間計画を活用して、記録を残すと同時に話し合いのためのツールとした。また、学習支援部が進めるクラスミーティングでの意見交換を行った。 ③児童自身ができる範囲の動きで関わることにより、変化が分かりやすい教材・教具を活用した。加えて、授業の流れを一定にする、繰り返し活動するなどして見通しをもちやすくする工夫をした。
評価の視点	評 価
①児童の情報を保護者や関係機関と共有し、適切な支援体制がとれているか。	A B C D
②児童の記録を活用して適切な目標設定ができているか。	A B C D
③児童が主体的に取り組めるように具体的な手立てを講じて授業を行っているか。	A B C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ① ○学校生活全般をとおして、専門家のアドバイスをもとに多面的にアプローチし、保護者と連絡を取り合いながら、どの教員も同じ支援を行えた。 ▲児童の成長に伴い、昨年度見学に行った訓練参観も再度行けるとよい。 ② ○学年会を定期的に行ったり、単元シートを活用したりして、児童の共通理解、情報共有を細かく行うことができた。 ▲「クラスミーティング」として、決まった時間を設けられなかった。 	A B C D

③ ○児童一人一人に適した支援方法や教材などを検討し、実践できた。	
来年度に向けての改善方策案	・人数が減少する再来年度に向けて、業務を見直していく。

【中学部】

評価する領域・分野	教育活動
現状及びアンケートの結果分析等	・生徒一人一人のよさや可能性を伸ばせるような工夫がされており、教員への信頼感も高く、保護者との連携はよい。ICT 機器を活用は行っているが、どのように活用されているかわからないとの評価もあり課題である。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	① 個に応じた適切な方法を取り入れながら、基本的な生活習慣や社会生活に必要な知識技能を育てる。 ② 個の発達段階等に合わせて、表現方法の課題を設定したり、促したりしてコミュニケーション能力を育てる。 ③ 仲間と関わる活動を通してお互いを認め合い、自己肯定感（自己受容感）を高め、仲間を尊重する気持ちや態度を育てる。
重点目標を達成するための校内組織体制	・類型、学年、部会等で生徒の情報を共有し、個に応じた支援を組織で行う。 ・保護者や他学部、保健室等との連携を密にとる。 ・外部の支援機関と連携し、必要に応じて支援会議などを行う。
目標の達成に必要な具体的取組	① 類型会等を活用し単元シートをもとにした生徒の実態把握、学習内容、学習課題及び評価を行う。 ICT 機器の活用、体験的主体的に取り組める授業を行う。 地域や家庭と連携し、保護者や教員間で情報共有を徹底する。 ② 生徒が自分の思いを表現できる場面を設定し、タブレット等を活用したりして表現できるような環境を作る。 ③ 活動方法を工夫した仲間と関わる活動を設定する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	① 生徒の情報を共有し、適切な支援を共通して行うことができたか。 ② 生徒の興味・関心を引き出したり、学習効果を高めたり、主体的に取り組めるように I C T機器の活用や教材・教具の工夫ができたか。 ③ 生徒同士でお互いに認め合う姿がみられたか。仲間と関わる活動の設定を職員間で話し合うことができたか。
取組状況・実践内容等	① 類型会や Teams 等を活用し、生徒の情報、授業内容の共有を図った。 ② 自分の思いや考えを表出できる状況を設定した。タブレット端末や写真カードなど様々な方法を活用できるようにした。 ③ 生徒会や中学部全体での活動の中で、色々な生徒と関われる状況や環境を設定した。

評価の視点	評 価
① 生徒の情報を共有し、適切な支援を共通して行うことができたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
② 生徒の興味・関心を引き出したり、学習効果を高めたり、主体的に取り組めるように I C T機器の活用や教材・教具の工夫ができたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
③ 仲間と関わる活動の設定を職員間で話し合うことができたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D

成果・課題	総合評価
① ○類型会や Teams 等を活用し、生徒の様子、授業のねらいと内容を共有し共通理解した上で指導ができた。生徒の社会性やできることが増えてきた。 ▲他類型の生徒の様子や適切な指導・支援の共通理解を図る機会が少なかった。 ② ○デジタル教材や個々に合わせて教材等を活用し、視覚的・聴覚的に分かりやすく伝えたことで、主体的に取り組む姿が多く見られた。 ③ ○類型に限らず、部全体や生徒会、高等部生徒と関われる場面を設定したことで、関わろうとする姿や積極性がでるなど自信をもって取り組む姿が見られるようになった。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D

来年度に向けての改善方策案	・金曜日放課後を計画的に活用する。ひと月のうちに類型会、授業形態毎のグループ、部全体など各教員グループで、授業のねらいや内容の検討、生徒への指導方法、支援の仕方、情報共有を行う。
---------------	---

【高等部】

評価する領域・分野	教育活動
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器等を活用し、生徒一人一人に合わせた授業を工夫している。 アンケートより、学校と家庭とは連携を取り信頼を得ている。一方で、授業や教職員の業務等に関しては十分に周知がされていない。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の目標を明確にし、教員間で授業計画についての共通理解を十分行った上で生徒の進路実現に向けた授業を実践する。 2 生徒が主体的に取り組めるような具体的な課題を設定し、生徒自身自分の考えや思いを積極的に表現できるようにする。 3 生徒相互のコミュニケーションを大切に、協働的に課題に取り組むことを通じ自立のために必要な力を育む。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学級、類型会、学年会、学部会での生徒の情報を共有、連携する。 ・必要に応じて、校内・校外と連携した支援会議を行う。
目標の達成に必要な具体的な取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 個々の進路に必要な学力、体力、技術を職員間で共有し、進路実現に向けて生徒に課題を提示する。また、実習等の際には具体的な評価をする。 2 ICT 機器を用いて写真や実物を提示するなど、生徒の実態に合わせた方法を用いることで、生徒にとって分かりやすく興味をもって授業に臨める工夫をする。 3 学習の場を学年、類型、学部全体など工夫し、意見を交流できる場や協力し合って活動する場を設定する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で情報を共有し、生徒に支援することができたか。 ・ICT 等を活用するなど生徒が授業に興味関心をもつことができたか。 ・仲間との係わりにより楽しみや期待感をもつことができたか。
取組状況・実践内容等	<ol style="list-style-type: none"> 1 進路実現に向けて、保護者・担任・進路担当者と連携し、個々に合った事業所見学や実習を行った。類型会等で生徒の課題等を情報共有した。 2 PowerPoint や MetaMoJi、視線入力、スイッチ教材、タブレット等の ICT 機器を用いて、生徒がイメージがしやすい絵や写真で具体的に提示したり、生徒が主体的に取り組めるよう機器を使いやすいように個々に応じた工夫した。 3 役割分担をし、それぞれが司会や号令をかける場面を設定し、お互いのよさを認め合うことができるようにした。学校行事等で他学部、他類型との交流を積極的に行った。
評価の視点	評 価
① 生徒の実態に合わせ、進路実現に向けた授業を実践できたか。	A B C D
② 生徒が主体的に取り組めるような具体的な課題を設定することができたか。	A B C D
③ 生徒相互が、協働的に課題に取り組むことを通じ自立のために必要な力を育む。	A B C D
成果・課題	総合評価
<ol style="list-style-type: none"> ① ○進路体験実習や事業所見学、職場見学を通して進路意識を高め、保護者と連携を取りながら、生徒の実態に合わせた進路指導をすることができた。 ▲生活単元学習や作業学習等の授業を利用して、進路先の意識付けや進路に関する理解をさらに深めていく。 ② ○ICT 機器を使って、授業や修学旅行、校外学習のポイントを明確に提示できた。 ▲MetaMoJi 等のアプリの様々な機能を活用して、学習支援に生かしていく。 ③ ○授業や全校集会、部集会等で自分の役割を果たす際、必要最低限の支援を行うことで生徒の積極的な取組を引き出した。 	A B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や外部講師による講演等を活用して、保護者や生徒の進路意識や理解を深める。 ・ICT 機器をさらに活用するため、これまで使っていない機能を知り、授業や行事に活用する。

【教務部】

評価する領域・分野	教育活動
現状及びアンケートの結果分析等	学校教育目標や教育方針、個々の良さや可能性を高める工夫については、肯定的な評価。個々に合った教材・教具を取り入れた教育活動への期待が高い。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	◎「指導と評価の年間計画」「個別の指導計画」を中心にしたPDCAの活性化 1 日々の教育活動における「個別の指導計画」と「指導と評価の年間計画」に基づいたPDCAサイクルの展開により一人一人に応じた学習支援の充実。 2 学習指導要領の理念を踏まえ、「個別の指導計画」と「指導と評価の年間計画」を元にしたカリキュラムマネジメントを推進する校内体制づくり。
重点目標を達成するための校内組織体制	1 ①児童生徒の学びの履歴及び教職員の授業改善（授業を考える材料・引継ぎ文書）につなげる「単元シート」（「指導と評価の年間計画」の一部）の作成と活用のための、教務からの定期的な周知及びファイリング状況の確認。 ②学年の日等における「単元シート」を活用した授業改善の話し合い。 2 年間3回（年度当初・前期末・後期末）の「個別の指導計画」作成時のPDCA視点での作成についての教務部からの周知。
目標の達成に必要な具体的な取組	1 「指導と評価の年間計画」を日々の授業計画の中で活用することによって、『授業改善』の充実に取り組む。 ・学級（教育課程）毎に一元化した「指導と評価の年間計画」による行事や他教科とのつながりのある教育活動の実施。 ・単元シートの活用による、授業改善及び教員間の共通認識の活性化。 2 「個別の指導計画」を元に、実態—指導目標—手立て—評価のつながりを明確にし、確実な『学びの連続性』につなげる。 ・各教育課程にある教育内容に基づいた視点での実態の記載の周知。 ・前期目標-手立て-評価→後期目標-手立て-評価→次年度目標への反映。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	1 「単元シート」を作成し、日々の授業改善に取り組めたか。 2 学期末に実施する「通知表&後期目標等作成会」等において、類型等で各児童生徒の評価と次期目標の検討ができたか。（PDCAの取組）
取組状況・実践内容等	1 ・前年度末作成の「指導と評価の年間計画」を元にした今年度分作成の周知。 ・「単元シート」作成の定期的な周知・啓発。ファイリングの呼び掛け。 2 ・「個別の指導計画」の実態について、教科と自立活動の視点での整理。 ・評価及び次期目標の類型等での話し合い日を年間計画に明記。
評価の視点	評 価
① 「単元シート」（「指導と評価の年間計画」の一部）の作成及び活用ができたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
② 「個別の指導計画」に基づいた実態—指導目標—手立て—評価ができたか。また、その評価を次の段階へつなげることができたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
成果・課題	総合評価
① 「単元シート」作成やファイリングについて、Teams や部会等での定期的な周知により、作成の意義や実際の活用（作成→共通理解→評価）について学部職員に浸透してきた。 ○4月当初日程に学級・類型の時間を位置付け、前年度作成分を元に修正した。 ▲活用しているクラスがある一方、シートを作成できていないクラスもある。 ▲授業改善のための「単元シート」活用ができていない。 ▲「単元シート」を「からだ」「個別」の引継資料として活用していく。（小学部） ▲小中A 類型の「指導と評価の年間計画」を実際の授業計画に役立つものにする。 ② 「個別の指導計画」について、年度始め・学期終わりに話し合い日を設定することで、共通理解を図ることができた。 ○実態把握を綿密に行うことで、指導目標、手立ての共通理解を図り、評価に結びつけることができた。その評価を後期目標につなげることができた。 ▲自立活動の中心課題は、前年度から引き継ぐだけになっている。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
来年度に向けての改善方策案	①「指導と評価の年間計画」を日々の授業検討に活用できるよう周知・ファイリングを継続。 ①他学部の「単元シート」の閲覧できる機会を設け、お互いに参考にできる機会をもつ。 ①小中A 類型の「指導と評価の年間計画」について、高A 類型の様式を参考に検討。

	<p>②「個別の指導計画」はR6年度からの校務支援システム導入により新様式となる。新様式の意図の周知及びスムーズな移行のために、教務部と類型長を中心とした校内体制を整える。(作成時期に合わせた作成の意図及び作成方法の説明等)</p> <p>②学期毎の「個別の指導計画」に関わる類型会の実施を継続。</p> <p>②自立活動の中心課題の年度毎の見直し。自立活動の流れ図作成の研修について、研修係との連携を検討。</p>
--	--

【キャリア支援部】

評価する領域・分野	教育活動
現状及びアンケートの結果分析等	・進路指導・関係諸機関との連携において、施設見学の計画実施や意識的に情報提供を行ったこともあり、肯定的な評価につながった。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◎個々のニーズや家庭状況等に応じた進路支援の推進。</p> <p>◎合理的な配慮の観点を反映させた「個別の教育・移行支援計画」の立案と活用の推進。関係機関等との連携を図った継続した校内支援、校外支援の充実。</p> <p>◎関係諸機関と連携した円滑な移行支援、卒業生への継続的な支援の推進。</p>
重点目標を達成するための校内組織体制	分掌内の各係担当窓口とした取り組みの発信・改善策及び対応 各学部・分掌内情報共有
目標の達成に必要な具体的取組	<p>1 進路体験実習、職場施設見学の実施、発達障がい、精神障がいを有する生徒の進路開拓の情報収集。</p> <p>2 保護者との連携・情報発信、進路行事への参加の呼びかけ、移行支援会議の実施、関係諸機関との連携、卒業生支援の継続。</p> <p>3 地域のニーズをふまえた乳幼児教室の実施。</p> <p>4 昨年度の反省を生かしたつながる会（地域連携協働会議）のスムーズな実施。</p> <p>5 コロナの状況とニーズをふまえた研修会や居住地校交流、訓練参観等の実施。</p>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<p>・各学部が発達段階に応じたキャリア支援に関する行事の開催、情報を発信し、各ニーズに応じて必要な情報を伝えることができたか。</p> <p>・進路決定に向けて、ニーズに応じて見学や実習など具体的な取組が行えたか。</p> <p>・コロナの状況をふまえ、地域や校内のニーズに応じた支援が実施できたか。</p>
取組状況・実践内容等	<p>1 進路説明会の実施、進路の手引きや進路だより（STEP UP）の配付と情報発信。中学部、高等部とも進路体験実習を実施。</p> <p>2 必要に応じて保護者懇談への参加や担任と連携し、ニーズに応じた情報提供や事業所・企業の見学、実習を計画・実施できた。</p> <p>3 昨年度の反省から日程等を工夫したつながる会（地域連携協働会議）及び乳幼児教室を実施した。</p> <p>4 参集型の研修会や訪問交流を含めた居住地校交流、訓練参観等を実施した。</p>
評価の視点	評 価
① 各学部において保護者や関係諸機関等と連携しながら個々のニーズに応じたキャリア支援が実施できているか。	A B C D
② 変化するコロナの状況をふまえつつ、昨年度の反省や引継ぎをもとにやり方の工夫し、地域や校内のニーズに応じた相談支援が実施できているか。	A B C D
成果・課題	総合評価
<p>① ○外部講師による行事を進路指導に役立てた。保護者や関係諸機関等との連携し、個に応じた情報を提供し、事業所見学や進路選択・決定につながった。 ▲関・美濃市の事業所説明会や進路行事などの保護者の出席が少なかった。</p> <p>② ○乳幼児教室、自立活動研修会、訪問支援、相談会等地域のニーズに応じた支援が実施できた。つながる会（地域連携協働会議）では継続した実施により、居住地域の関係機関の理解が深まってきている。 ▲担任を通して保護者との事前の共通理解を丁寧に図ることが必要。</p>	A B C D
来年度に向けての改善方策案	<p>・進路行事について、年間行事予定や年度始めの配付資料等への記載やすぐメールや担任からの呼びかけ等により参加を促す。</p> <p>・キャリアパスポートの活用に向けて、継続的な改善を行う。</p> <p>・進路希望調査を小学部は実態や保護者の意識に合わせた質問項目にする。</p> <p>・エントランスの案内掲示や個別の教育支援計画の活用がすすむよう、進路だよりを通して広報する。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画の新様式への移行について、作成活用しながら細かな部分の調整をしていく。 ・令和7年度以降に向けて業務の見直し、引継ぎができるようにする。
--	---

【学習支援部】

評価する領域・分野	1 研修 2 ICT活用
現状及びアンケートの結果分析等	1 教職員の実践力を高めるため、チーム力と専門性の向上が必要である。 2 児童生徒のニーズに応じ、ICTを活用した個別最適化支援が必要である。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 対話型研修の実施により、教職員のチーム力を向上させる。 教職員が各種研修を通じ、専門性を向上させることができるように仕組む。 2 児童生徒一人一人のニーズに応じた機器活用研修を実施する。 担任と連携し、ICT・ATを活用した個別最適化を実現する。
重点目標を達成するための校内組織体制	1 研修主事 研修推進委員会 学習支援部研修係 2 ICT活用担当 情報管理担当 学習支援部情報係
目標の達成に必要な具体的な取組	1 対話を重視した校内研修 専門性向上研修、授業参観、PT・OT・ST相談 2 学びの日、ICTミニ交流会でのICTやAT紹介、教員の実践交流 Teams Formsを活用した、ニーズ把握、担任との相談活動、情報発信
達成度の判断・判定基準あるいは指標	1 チーム力と専門性に関する教職員アンケート等の結果。 対話研修や授業参観などの意見、感想。 2 児童生徒、教員のニーズを把握し、機器活用研修が実施できたか。 担任と連携し個別最適化された学習環境を整えることができたか。
取組状況・実践内容等	1 対話型研修「チーム力向上、保護者理解、新しい学校行事等」を実施した。 専門性向上研修、授業参観、PT・OT・ST相談を実施した。 2 ICT研修会(PPT forms AppleTV スイッチ アプリ プログラミング教材) ニーズに対して個別対応することができた。
評価の視点	評価
1 感想用紙等に、各種研修取組の成果を感じる等の意見があるか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
2 ニーズを把握して研修を実施し、個別最適な環境を整えることができたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
成果・課題	総合評価
1 ○実践力向上の基礎となる「対話」のできるチームになった。 ▲実践力の向上のため、より主体的で対話的で深い学びのデザインと実現。 2 ○ICT研や交流会、個別対応により個別最適化された環境整備を進めた。 ▲実現可能な年間計画に沿った、個別最適化を継続できる仕組化。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
来年度に向けての改善方策案	1 授業力向上：事例検討対話と授業参観の実施 チーム力向上：学校課題の解決を実現する対話研修の年間デザインと実施 専門性向上：研修効果が高まる仕組み。アイスブレイク、対話、書き出し 主体的な学びが起きる仕組みをデザイン実施。 2 ICT研修と Teams 情報発信を年間計画し、毎回分掌会で進捗確認と最適化。 ICT体験研修会を6月30日までに実施。

【生徒支援部】

評価する領域・分野	教育活動
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめをゆるさない関係づくり ・お互いに認め合い尊重し合える関係づくり
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な生活習慣や望ましい生活態度を育てる。 2 学校生活全般を通して好ましい人間関係の育成を図る。 3 家庭や関係機関と連携し、思いやりのある心を育てる。 4 災害や不審者に適切に対応する力を育てる。 5 SB の共同運行を安全かつ計画的に行う。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・各担当を中心に、他の校内組織や外部の関係機関と連携する。 ・寄宿舎との連携（主に防災・防犯・SB）
目標の達成に必要な具体的取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒向けの研修（薬物乱用・消費生活・情報モラル）を実施する。 2 人権教育の推進（ニコニコの木の作成）、児童生徒会活動の充実（さんざし祭や全校集会の全校取り組み企画の計画と実施）、MS リーダーズ活動の充実。 3 SC 面接、教育相談研修、いじめ等のアンケートを実施する。 4 命を守る訓練、シェイクアウト訓練、不審者対応訓練、防災研修を実施する。 5 事務部、寄宿舎、中濃特支、添乗員、運転手との連携、校外学習等の SB の運行計画と実施学年との連携を行う。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が安全に安心して、主体的に学校生活を営むことができたか。
取組状況・実践内容等	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒向けの研修（情報モラル、薬物防止、消費生活）を実施することができた。チームスを利用して教員向けに情報を提供することができた。 2 自己紹介カードを生徒会が作成し、ニコニコの木に全校児童生徒が張り付けることができた。全校で役割を分担した全校集会が実施できた。MS リーダーズを中心とした挨拶運動および校内清掃を実施できた。 3 LGBTQ の研修及び SC の職員向け研修を実施した。また SC と定期的な相談を実施し、生徒向けの SOS の出し方教育を実施できた。 4 より具体的な状況を設定した防災、防犯の訓練を継続して実施できた。職員向けの防災研修およびさすまた研修や不審者対応訓練が実施できた。
評価の視点	中間評価
① 基本的な生活習慣に関わる取り組みは適切であったか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
② 自主性、自立の育成に関わる取り組みは適切であったか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
③ 児童生徒理解と信頼関係を築くための取り組みは適切であったか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
④ 防災、防犯、安全に関わる取り組みは適切であったか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
⑤ SB の共同運行が、安全かつ円滑に行うことができたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○委員会を充実させたことで、生徒会、活性化委員会が役割をもって全校集会を運営することができた。 ○防災・防犯訓練のやり方等を見直し、新しい試みを行うことができた。 ○児童生徒向けの SOS の出し方研修が実施できた。 ○事務部、中濃特支と連携し、安全な SB の運行ができた。 	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・全校の児童生徒が役割をもって活動できる場を作る。 ・生徒が見通しをもって活動ができるように先の行事や取り組みについての支援を行う。 ・具体的な状況を設定した防災訓練を実施する。 ・警察署と連携した防犯訓練を実施する。 ・SOS の出し方教育は、なるべく早い時期に実施する。

【保健安全部】

評価する領域・分野	保健安全部	
現状及びアンケートの結果分析等	・緊急時対応と医療的ケアの実施に関するアンケートで否定的な答えがみうけられた。保護者との連携や情報提供に今後も継続して取り組む。	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 個々の児童生徒の実態に合った配慮食の提供と摂食支援のスキルの向上 2 学校へ移設でない当校における安全な医療的ケアの実施 3 当校としての感染症予防を考慮しながら、教育活動の幅を広げる	
重点目標を達成するための校内組織体制	1 摂食コーディネーターを中心に外部講師や配膳員との連携や職員研修の充実 2 保護者や主治医・指導医との連携、看護師との情報共有。医療的ケア検討委員会、医療的ケア校外学習実施検討会での検討 3 管理職との連携、職員への周知徹底。産業医、学校医等との連携	
目標の達成に必要な具体的取組	1 自主研修会と外部講師を交えた夏季職員研修会。ゼリー食やまとまり食、やわらか食等を部分的導入。摂食・口腔ケア実態表の作成 2 緊急時にカニューレ挿入が必要になった場合の対応マニュアルの見直し。 ミス未然に防ぐようダブルチェックを行うための仕組みづくり 3 全体の学校方針を管理職で決定し、それに沿って校内の感染対策を実施	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	1 職員の食形態や摂食支援に関する知識を高め、個々の支援を考察する。 2 日々の医療的ケアが安心・安全に実施され、非常時の対応を共通理解する。 3 感染対策をしながら、学校行事等を徐々に再開できる。	
取組状況・実践内容等	1 ・摂食研修会での学びを生かし、摂食・口腔ケア実態表を各児童生徒に作成。 2 ・早急な対応が必要な子への緊急時の手順書や保護者への同意書を作成した。 ・看護師研修として県より指導的看護師を依頼し、指導助言をいただいた。 3 ・物品の減少とともに、感染症対策を随時見直し、周知した。 ・各行事の感染対策や来年度の校外学習等の感染症対策を見直した。	
評価の視点	評 価	
① 摂食支援の基本的な知識を理解し、摂食支援に役立てているか。	A B C D	
② 看護師との情報共有を密に行い、安心して医療的ケアが実施できたか。	A B C D	
③ 感染症対策しながら、学校行事を徐々に充実させることができたか。	A B C D	
成果・課題	総合評価	
① ○摂食研修会で食形態を共通理解し、ST 相談と絡めて実態表の作成ができた。 ② ▲細かなヒヤリハット・アクシデントが例年より多くあったため、医ケアの物品準備や実施時のダブルチェックの徹底を行った。○全体としては保護者との連携を踏まえ、安全な医療的ケアが実施できた。 ③ ○参加人数を増やし全校でのさんざし祭の実施。校内の感染症対策の見直し。	A B C D	
来年度に向けての改善方策案	・安全な医療的ケアに向けて、看護師の勤務時間を踏まえた体制づくり。 ・実態に合わせた配慮食提供の継続。2次調理員の確保や調理手順の共有。 ・スポーツフェスタを、さんざし祭を含めた新しい行事へ改変する。	

【渉外部】

評価する領域・分野	PTA 活動・同窓会	
現状及びアンケートの結果分析等		
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>1 家庭と学校との協力、連携に向けた取り組みを推進する。</p> <p>2 執行部会や各委員会を通して、保護者間のつながりを深めることができる PTA 活動を組織する。</p> <p>3 コロナ感染症により減少していた PTA 活動を、規模に合った活動かどうか照らし合わせながら検討できるよう支援する。</p>	
重点目標を達成するための校内組織体制	<p>1 渉外部会</p> <p>2、3 渉外部会、PTA 執行部会・役員会、同窓会役員会</p>	
目標の達成に必要な具体的取組	<p>1、3・PTA 活動の再開について、検討できるようにサポートする。</p> <p>2・必要に応じて教員が間に入り、つながりがもてる活動の提案を行う。</p>	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<p>・PTA 活動及び同窓会活動が保護者や同窓会役員を中心とした話し合いによって、充実したものになったか。そのための連携・協力ができたか。</p>	
取組状況・実践内容等	<p>1・PTA 活動においては、協力・連携した活動の実施に向けて検討したり、保護者に過度な負担がかからないように配慮したサポートを行ったりした。同窓会においては、新役員を迎え、充実した役員会に加え、同窓生が集える場の検討についてサポートを行った。</p> <p>2・PTA 連絡会等の場で保護者間のつながりの重要性を伝えるように努め、研修等で交流の場を設けた。</p> <p>3・今後の児童生徒数減少と保護者負担を考えた活動、かつ自分達がやってみたい活動を精選・検討する機会を設けた。</p> <p>・同窓会役員の意向に沿い、無理のない範囲内での活動（学校祭で同窓生が集う機会）をサポートした。</p>	
評価の視点	中間評価	
①家庭と学校との協力、連携に向けた取り組みを推進することができているか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D	
②保護者間の交流の場の設定等、分掌として PTA 活動を支援することができているか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D	
③規模に合った活動かどうか検討する場を設けているか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D	
成果・課題	総合評価	
<p>①○保護者の提案等について管理職と相談し、真摯に向き合うことで保護者と学校が連携していくスタンスを強調することができた。連携につながるよう、職員に向けて PTA 活動や保護者の思いを伝えるように努めた。</p> <p>②○PTA、同窓会ともに交流の場を設けることができた。楽しく、顔見知りになれるような活動の設定、意見を出しやすい雰囲気作りに努め、参加した方からは「参加して良かった」の意見を多数もらった。</p> <p>③○役員が多面的に検討できるよう支援した。</p> <p>▲PTA の会員数減少や、教員の働き方改革を鑑みて、PTA 活動の在り方や分掌の業務内容を、引き続き検討していく必要がある。</p>	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D	
来年度に向けての改善方策案	<p>・保護者のニーズと負担、職員の負担を踏まえた上で、渉外部会・役員会を中心に PTA 活動の在り方（スリム化）を検討していく。（具体的には、定期総会における forms 活用、夏休み明け PTA 活動をキャリア支援部と連携、PTA 連絡会の回数減等）</p>	

【舎務部】

評価する領域・分野	寄宿舎教育
現状及びアンケートの結果分析等	・舎生が減少していることで舎生一人一人の個に寄り添える環境ではあるが、舎生同士のかかわりを持つことが難しい。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 心身ともに健康で安心かつ快適な寄宿舎生活を支援する。 2 自分で考え、主体的に行動できる自立心を育成する。 3 互いに認め合い、協力できる態度を育成する。
重点目標を達成するための校内組織体制	・個別支援計画を元に指導員全員で同じ目標に向かい、色々な手だてを探りながら支援し、記録をもとに日々引継ぎや話し合いを行っていく。 ・保護者、PT,OT,ST、学級担任をはじめ類型の先生方と連携を取りながら支援を行う。
目標の達成に必要な具体的な取組	1 保護者や関係の先生方と日ごろから密に連携を取り、心身の状態を把握する。 ・舎生が意欲的に取り組むことができるよう支援の工夫をする。 ・舎生が安心、安全に生活できるよう環境づくりや支援の工夫をする。 2 舎生ひとりひとりにとって必要な力とは何かを指導員間で共通理解を図り、日々の生活の中で状況に合わせた支援に取り組む。 3 自分の気持ちを表出し、人に伝えることができるよう意識して支援する。 ・舎生同士がかかわる場面を大切に、仲間の存在を意識できるように支援する。 ・舎生活全般や、舎生会活動などを通し、経験を増やしていく。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	1 個別の支援計画をもとに支援を行い、日々の記録の活用と引継ぎができているか。 ・舎生が健康面に留意し、安全、安心した生活を送れているか。 2 自発的な選択行動や自己表現できるような環境づくりができているか。 3 仲間の存在を意識しながら生活できているか。 ・自分の気持ちを大事にしながら生活できているか。
取組状況・実践内容等	1 ・支援計画シートに特記事項を記入し、支援をつなげたことで継続した支援や共通理解につながった。 ・PT、ST 相談を積極的に利用し、支援、介助に活かしている。 ・学舎懇談や送迎時を利用して学校、保護者と連携を密に取れるよう心掛ける。 2 ・経験を増やすことができる場面設定を行っている。 ・舎生から能動的な発言や行動が出てくるよう待つ姿勢を意識しながら日々の支援を積み重ねている。 3 ・舎生会活動を通して、舎生が充実した余暇時間を過ごせるように支援している。 ・寄宿舎減の中で少しでも舎生同士のかかわりが持てるような支援や場面設定を行った。
評価の視点	評 価
① 舎生が健康面に留意し、安全、安心した生活を送れているか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
② 支援目標や具体的な手立てを共通理解し、振り返りを行いながら支援できたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
③ 余暇時間（行事も含む）の過ごし方に工夫をし、舎生が自己表現できる場を大事にできているか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
成果・課題	総合評価
① ○PT、ST 相談を積極的に利用し、介助や支援に活かしている。 ○食育、保健指導、様々な訓練など舎生が自身の身体について考えることができるよう工夫し行うことができた。また継続した事後指導も行った。 ○保健安全部と連携し、感染対策や清掃方法を随時見直し周知することができた。指導員同士が確認しあいながら対応することができた。 ② ○支援について話し合う場を増やしたり、シートの様式を変更したりすることで舎生理解が深まった。 ▲指導員間の考えの違いや泊りの回数の減少により共通し継続した支援が難しい。 ③ ○日課や生活の決まりを見直したことで余暇時間を更に変更できるようになった。 ○様々な行事においても個々で理解し、楽しむことができるように工夫することができた。 ▲個人が楽しむ時間はできるが、集団生活の楽しさを味わうことができていない。現実的に難しい。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D

来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・学校との連携、共通理解が密にできるようにする。 ・舎生支援について、指導員間の連携と共通理解をより図るため個別の支援計画に基づく舎生についての話し合いとそれに伴う舎内研修の実施。 ・舎生に合わせた舎生活（日課）行事、訓練などの見直しと工夫。
---------------	---

学校関係者評価（令和6年2月8日実施）

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果と課題がはっきりと分かってよかった。授業参観ができたので、それに肉付けしてイメージがもちやすかった。令和7年度に児童生徒が減少していくことをネガティブにとらえなくてよい。地域で子どもを育てていくことが大切である。 ・令和7年度は大きな節目になるという共通認識をもって関係者が話し合えるとよい。寄宿舎や家庭への影響が出てくるが、大人の都合で児童生徒の不利益にならないようにしないとイケない。 ・学校にいる間はずながりがあるが、卒業後の地域での居場所を考えていく必要がある。障がいがあっても地域との交流があり、地域に居場所があるとよい。特別支援学校は卒業生にとって大きな存在である。卒業して何年たっても学校を大切に思っている卒業生の居場所のことも考えてあげたい。 ・今でも一人学級の児童がオンラインで別の学校とつながる取組をしている。令和7年度に人数が減少するからマイナスになるのではなく、いろいろな工夫があるといい。単元シートや校務支援システムなどは教職員の働き方を軽減できる。 ・生徒減少に伴い教職員が減少しても、教育活動の中身は同じか、それ以上のことをしないとイケないので、教職員の大変さを感じる。学園生はスクールバスに乗って、元気に学校に登校していく。教職員や友達が待っているの、足取りもスムーズである。学校と学園とタテ・ヨコの連携をしていけるとよい。 ・大阪の病院のS Tに、学校での食形態のことを話すとき驚いていた。大阪の学校ではそこまできていないという。給食試食会などを通して学校の給食はすばらしいと思った。給食、二次調理、摂食指導は学校の強みになる。 ・令和7年度以降、建物の維持管理もたいへんになるが、地域のボランティアを活用したり、雇用の場にしたりできるといい。医療的ケア児の保護者は学校に行っている間は、バラ色の6年間、9年間と言われる。その間に、自分の時間がもて、活動できる。卒業して子どもが家に戻ってくると、自分の時間を子どもに捧げないとイケない。卒業後の進路、居場所づくり、保護者支援など学校としてできることを考えてほしい。 ・個々に合わせた教材やICT機器が活用されている。ただ、教職員が新しいツールを活用すればするほど学校と事業所とのギャップが生まれてくる。事業所には予算の関係など限界がある。事業所の職員と教職員との交流や見学ができるとよい。卒業後も学校に近い状況で生活ができるとよい。
